

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 11日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20320093

研究課題名（和文）

身分感覚の比較史的研究

研究課題名（英文）

Comparative History of the Sense of Social Status

研究代表者

岸本 美緒 (KISHIMOTO MIO)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：80126135

研究成果の概要（和文）：本研究では、東アジア、ヨーロッパ、及び中東地域を中心として、「身分感覚」に焦点をあてた新たな視座から身分関係の比較歴史学的考察を行った。従来研究の中心とされてきた経済的或いは法制度的な階層・身分の分析に止まらず、人々がどのように相互の社会的地位を認知し、それに応じた振る舞いをしてゆくのかという具体的な過程に着目し、絵画・小説・戯曲などの史資料を用いて、しぐさ・呼称・交際儀礼等に表現される上下感覚を分析した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to make a comparative study on the patterns of social structure from the new perspective of “sense of social status”, focusing on the historical societies in East Asia, Europe, and Middle East. This research not only analyzed the economic and legal-institutional aspects of the social status, which were the main object of previous studies, but also paid attention to the concrete processes in which people recognized others’ social positions and behaved according to those recognitions. Pictures, novels and dramas were used as materials to analyze the sense of social status expressed in gestures, forms of address, social manners, and so on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2010年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2011年度	2,800,000	840,000	3,640,000
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：比較史、身分制

## 1. 研究開始当初の背景

従来の身分制研究は、主に一国史的な枠組みのなかで、経済的あるいは法制度的な観点から身分関係を分析することに大きな関心を払ってきた。そのため、以下のような問題点が生じていた。(1) それぞれの社会に生きる人々がどのように相互の社会的地位を認知し、それに応じた振る舞いをしてゆくのかという具体的な認知と行為のあり方につい

ての分析が不十分であった。(2) 必ずしも明示的には表現・記録されない共有された社会感覚のレベルに踏み込むことが困難であった。(3) 時代・地域を限定した固定的なモデルを作りがちで、近現代にも存在する差別の問題への関心や、異なる地域との柔軟な比較の視点が往々にして欠落していた。本研究は、「身分感覚」に着目した比較史的研究によって、このような欠点を克服し、身分研究の新

たな方向性を追求しようとしたものである。

## 2. 研究の目的

本研究では、身分研究の重心を、人々がどのように相互の社会的地位を認知(感得)し、それに応じた振る舞いをしてゆくのかという具体的な認知と行為のあり方に置き、それぞれの社会において「生きられた身分」というものを主たる分析対象として考察を行うことを目指した。具体的な分析対象としては、しぐさや表情、呼称や交際上の習慣など、必ずしも明確に意識化されない感覚の側面に着目した。資料的には、絵画などのヴィジュアル資料や、小説・戯曲などを積極的に用い、そこに表われる「身分感覚」を読み解くことを試みた。さらに、共同研究の方向性としては、時代や地域ごとの差異、あるいは期せずして現れる共時性を相互に比較考究することを通じて、一国史的な枠組みに閉じこもらず、人間の作りなす秩序の多様性を開かれた視野のもとで考察することを目指した。単なる事象並列的な「比較史」ではなく、比較の方法論の明確化を常に意識した。

## 3. 研究の方法

具体的な研究の進め方としては、個々人の関心に基づくテーマの研究を基盤として、毎年4回程度の研究会を開催し、報告と討論を行った。2010年9月には、熊本での研究合宿において、身分研究の方法をめぐる集中的な討論のほか、阿蘇神社及び阿蘇社領山村の見学を行った。

そのほか、お茶の水女子大学を会場として下記のようなシンポジウムを開催した。(1)「比較名望家論の可能性」2009年12月、(2)「ジェントリの起源——日本の武士と比較して(The Origins of English Gentry in Comparison with Japanese and Eastern History)」2010年5月、(3)「文学のなかに身分感覚を読み解く」(2011年7月、第13回国際日本学シンポジウムの第一セッション)。

## 4. 研究成果

共同研究を通じて共有された内容的成果は次のようにまとめられる。

### (1) 「身分感覚」の諸類型

「身分感覚」という視点からみた社会的上下関係に、いくつかの類型があることが確認された。一般に日本では、「身分制社会」について、「諸個人が生得的に帰属するところの団体(たとえば家)によって、社会的分業が編成されているような社会」(水林彪他編『比較国史研究序説』柏書房、1992)といった説明がなされることが多い。近年、日本近世の身分制については、通説的な静態的・固定的イメージを再検討し、身分制度の周縁

や動態に着目する研究が精力的に進められているが(例えば「シリーズ近世の身分的周縁」「シリーズ身分的周縁と近世社会」吉川弘文館、などの論文集を参照)、そのような見直しにもかかわらず、日本近世身分制度研究において、「身分制」の問題は主に「身分集団」を基盤として論じられているといつてよいだろう。こうしたタイプの身分制社会は、フランスのアンシャン・レジーム下の社団国家体制などとも一定の共通点をもち、洋の東西を問わず普遍的に見られる前近代社会の在り方であると考えられがちである。しかし、同時期の中国においては、人々が生得的に帰属する団体によって社会的分業が編成されるという観念は基本的になく、職業選択の自由度は高く、それにとまって階層的流動性も高い。社会秩序の枠組みは強固な身分的上下関係によって律せられているが、その上下関係は集団を単位として公的に序列化されているというよりは、むしろ、民間のパーソナルな支配従属関係の形成によって、分化してくる。たとえば、清代中国で「賤民」といわれる代表的な存在は、奴婢、娼優(芸能者)、隸卒(役所の召使)であるが、彼らは独自の世襲的集団を形成するのではなく、主人や顧客に対する服役的サービスを個々に行うことによって賤視される。このような「賤」性は、異質な集団として良民社会から隔離されることによって表現されるのではなく、むしろ、富貴な人々に密着してこれに奉仕する隷属性として認識されるのである。

同じ身分関係といっても、「集団を単位とする分業体制」を根幹とする身分のあり方と、「服役(サービス)を媒介とするパーソナルな支配隷属」を中核とする身分のあり方とは、それを支える社会感覚は大きく異なる。こうした相違は、必ずしも国別の固定的類型としてとらえられるべきでなく、同じ地域でも時代によって異なり、また同じ社会のなかからみあいながら共存していることもある。「身分感覚」の諸類型は、上記の二つに止まるものではないが、比較を通じて、身分感覚の様々なパターンを理念的に精錬し、グローバルな視野のもとで分析してゆく方向性が示された。

### (2) 「身分感覚」と制度化の問題

本研究の一つの焦点は「比較名望家論」の可能性の検討にあった。必ずしも明確に制度化されず、しかも地域社会において勢力ある者と認知される「名望家」的な存在は、世界史のさまざまな時代・地域に見られるが、そのような「名望家」を比較史的視野からどのように分析するか、という問題である。

イギリスのジェントリ、中国の郷紳、中東のアーヤーン、などを比較検討する過程で、世界史の共時性の問題が浮上してきた。即ち、制度化された身分制がくずれてくる世界史

的な変動期に、こうした名望家的な支配が現れやすいのではないかということ、またさらに、こうした名望家支配が社会のなかで重要な意味をもって持続してゆくかどうかは、それぞれの社会の制度的な編成のあり方に関連しているということである。

本研究には、近現代史を専門とする研究者も参加したが、「身分」という語のもつ「前近代的」という通念に無意識的に規定され、前近代、とくに中世と近世が議論の中心となった。しかし、「身分」という語の通念的な意味にとらわれず、「名望家」的存在に着目するならば、近代への移行期における社会秩序のあり方が重要な問題になる。そしてさらに、前近代の「身分制社会」と近現代の「脱身分制社会」という単純な対比でなく、「身分感覚」を媒介に前近代と近現代とをつなぐ新たな視点が得られるのではないかという可能性が認識された。

上記(1)(2)のような問題関心を共有しつつ、個々の参加者のテーマに即して発表した業績は、2008年度から現在までの主要なもののみでも論文34件(内、英文5件、中文4件)、図書9件にのぼる。また、3回のシンポジウム(内2回は国際シンポジウム)においても、海外の研究者との間で方法的討議を行うとともに、研究成果の広い発信を図った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計34件)

- ① 岸本美緒「明清期の身分と日本近世の身分」『部落問題研究』195号、2011年、8-22頁。査読無。
- ② Mio Kishimoto, "Property Rights, Land, and Law in Imperial China." Debin Ma et al. eds., *Law and Long-Term Economic Change: A Eurasian Perspective*, Stanford University Press, 2011, pp.68-90. 査読有。
- ③ 岸本美緒「『岐路灯』に見る清代中国の身分感覚」『比較日本学教育研究センター研究年報』8号、2012年3月、39-49頁。査読無。
- ④ 山本秀行「ナチ人種主義再考——1942年9月16日のヒムラーの演説を読む」『お茶の水史学』54号、111-162頁。査読無。
- ⑤ 小風秀雅「法権と外交条約の相互関係——不平等体制下における日露間の領事裁判権問題と樺太千島交換条約の締結」貴志俊彦編『変容する国際社会と「外国人」問題』京都大学学術出版会、2011年、119-142頁。査読無。
- ⑥ 小風秀雅「条約改正と憲法制定」荒野泰典

他編『日本の対外関係』7、吉川弘文館、2011年刊行予定。査読無。

- ⑦ Toru Miura, "Islamic Legal Institutions of Contracts and Courts: A Comparative Perspective." Debin Ma et al. eds., *Law and Long-Term Economic Change: A Eurasian Perspective*, Stanford University Press, 2011, pp.178-197. 査読有。
- ⑧ 古瀬奈津子「隋唐と日本外交」荒野泰典他編『日本の対外関係』2、吉川弘文館、2011年、56-91頁、査読無。
- ⑨ 安成英樹「アンシャン・レジーム期フランスの文学に見る身分感覚」『比較日本学教育研究センター研究年報』8号、2012年、27-37頁、査読無。
- ⑩ 神田由築「役者評判記にみる旅芝居——『塩を踏む』若旦那」『西鶴と浮世草子研究』5号、2011年、152-164頁、査読無。
- ⑪ 神田由築「浄瑠璃に見る近世日本の身分感覚」『比較日本学教育研究センター研究年報』8号、2012年、21-25頁、査読無。
- ⑫ 藤原重雄「中世白描源氏絵への視座——縫物と鈿とを手掛かりに」佐野みどり監修『源氏絵集成』藝華書院、2011年、研究篇78-95頁、査読無。
- ⑬ 岸本美緒「“老爺”和“相公”——由称呼所見之地方社会中的階層感」張国剛他編『新近海外中国社会史論選訳』天津古籍出版社、2010年、106-127頁。査読無。
- ⑭ 小風秀雅「19世紀世界システムの子システムとしての不平等条約体制」『東アジア近代史』13、2010年、122-142頁、査読無。
- ⑮ Toru Miura, "The Salihiyya Quarter of Damascus at the Beginning of Ottoman Rule: The Ambiguous Relations between Religious Institutions and Waqf Properties." Peter Sluglett ed., *Syria and Bilad al-Sham under Ottoman Rule: Essays in Honor of Abdul-karim Rafeq*, Leiden: Brill, 2010, pp.269-291.
- ⑯ 古瀬奈津子「遣唐留学生と日本文化的形成」王勇主編『東亜視域と遣隋唐使』光明日報出版社、2010年、65-73頁、査読無。
- ⑰ 古瀬奈津子「日本人と中国人の相互認識」『日中歴史共同研究第一期報告書』2010年、201-216頁。査読無。
- ⑱ 神田由築「近世の身分感覚と芸能作品——『双蝶蝶曲輪日記』にみる」『お茶の水史学』53号、2010年、123-137頁。査読無。
- ⑲ 神田由築「近世・近代移行期における甲府の遊所——宿場から遊郭へ」『年報都市史研究』17号、2010年、10-23頁。査読無。
- ⑳ 岸本美緒「冒捐冒考訴訟と清代地方社会」邱澎生他編『明清法律運作中的權力与文化』聯經出版公司、2009年、143-173頁。

査読有。

- ⑲岸本美緒「『中国』の擡頭——明末の文章書式に見る国家意識の側面」『東方学』118輯、2009年、1-20頁、査読無。
- ⑳岸本美緒「清初の『文武相見儀注』について」『東洋史研究』68巻2号、2009年、92-121頁。査読有。
- ㉑ Mio Kishimoto, “New Studies on Statecraft in Mid- and Late-Qing China: Qing Intellectuals and Their Debates on Economic Policies.” *International Journal of Asian Studies*, Vol.6, No.1, 2009, pp.87-102. 査読無。
- ㉒山本秀行「野蛮なゲルマン人はどのようにして清潔なドイツ人になったか」『史艸』50号、2009年、139-155頁。査読無。
- ㉓ Toru Miura, “Continuity and Discontinuity of Damascus from the Mamluk Period to the Ottoman Rule: Preliminary Remarks on Urban Development.” *Proceedings of the International Symposium on Bilad al-Sham during the Ottoman Era: Damascus, 26-30 September 2005*, Istanbul, IRCICA, 2009, pp.23-33. 査読無。
- ㉔ 古瀬奈津子「敦煌書儀と『上表』文——日唐の表の比較をまじえて」土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の研究』東洋文庫、2009年、67-82頁。査読無。
- ㉕ 神田由築「豊後国杵築城下の段尻芸に関する史料について」『論集きんせい』31号、2009年、19-63頁、査読無。
- ㉖ 藤原重雄「都市の信仰——像内納入品にみる奈良の年中行事」高橋慎一郎他編『中世の都市 史料の魅力 日本とヨーロッパ』東京大学出版会、2009年、153-182頁、査読無。
- ㉗ 井上和枝「朝鮮時代士族女性の儒教的教養とその主体的内面化——女性による女訓書を中心に」『国際文化学部論集』9巻4号、2009年、1-18頁、査読無。
- ㉘ 岸本美緒「明代的応考資格と身分感覚」黄寛重主編『基調与変奏 七至二十世紀的中国』国立政治大学歴史学系他、2008年、257-281頁。査読有。
- ㉙ 岸本美緒「動乱と自治」村井章介編『人のつながりの中世』山川出版社、2008年、214-238頁、査読無。
- ㉚ 岸本美緒「清朝をどう見るか」『大東文化大学漢学会誌』47号、2008年、194-215頁。査読無。
- ㉛ 古瀬奈津子「營繕令からみた宋令・唐令・日本令」大津透編『日唐律令比較研究の新段階』山川出版社、2008年、166-182頁。査読無。

- ㉜ 神田由築「近世鞆の浦をめぐる流通と社会構造」『歴史科学』194号、2008年、16-26頁。査読無。

〔図書〕(計9件)

- ① 岸本美緒『地域社会論再考 明清史論集2』研文出版、2012年、348頁、査読無。
- ② 岸本美緒『風俗と時代観 明清史論集1』研文出版、2012年、310頁、査読無。
- ③ 高埜利彦・安田次郎『新体系日本史 宗教社会史』山川出版社、2012年、512頁。
- ④ 古瀬奈津子『撰関政治』岩波書店、2011年、244頁、査読無。
- ⑤ 三浦徹編『イスラーム世界の歴史的展開』(全15章のうち三浦が11章を執筆、近藤信彰他3名が各1章を執筆)放送大学教育振興会、2011年、243頁。査読無。
- ⑥ 小風秀雅編『日本近現代史』(全15章のうち、小風が5章を執筆、千葉功他2名が計10章を分担執筆)放送大学教育振興会、2009年、217頁。査読無。
- ⑦ 神田由築『江戸の浄瑠璃文化』山川出版社、2009年、102頁。査読無。
- ⑧ 安田次郎『寺社と芸能の中世』山川出版社、2009年、90頁。査読無。
- ⑨ 安田次郎『日本の歴史第7巻 走る悪党、蜂起する土民』2008年、366頁。査読無。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岸本 美緒 (KISHIMOTO MIO)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：80126135

### (2) 研究分担者

山本 秀行 (YAMAMOTO HIDEYUKI)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：10011347

安田 次郎 (YASUDA TSUGUO)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：60126191

小風 秀雅 (KOKAZE HIDEMASA)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：90126053

三浦 徹 (MIURA TORU)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：00199952

古瀬 奈津子 (FURUSE NATSUKO)  
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学  
研究科・教授 研究者番号：20164551

新井 由紀夫 (ARAI YUKIO)  
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学  
研究科・教授  
研究者番号：30193056

安成 英樹 (YASUNARI HIDEKI)  
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学  
研究科・准教授  
研究者番号：60239770

神田 由築 (KANDA YUTSUKI)  
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学  
研究科・准教授  
研究者番号：60320925

井上 和枝 (INOUE KAZUE)  
鹿児島国際大学・国際文化学部・教授  
研究者番号：80277706

藤原 重雄 (FUJIWARA SHIGEO)  
東京大学・資料編纂所・助教  
研究者番号：40313192

(3)連携研究者  
鶴島 博和 (TSURUSHIMA HIROKAZU)  
熊本大学・教育学部・教授  
研究者番号：20188642

永田雄三 (NAGATA YUZO)  
財団法人東洋文庫・研究部・研究員  
研究者番号：20014508